

こも
トントン子守り



作・柿本慧子



ぶうは、こもりのしごとを
しています。

きょうは、なきむしの
あきおくんをあずかりました。
「トントンすれば、なきやむわ」
おかあさんはそう言って、
さっさとかいものに
いってしまいました。



「トントンってなんだろ」
ぶうは、でんでんたいこを
かるくならしてみました。
トントントン
おとがしました。
けれどあきおくんはないた
ままです。

「ほかに、トントンって
いったら、なんだろ」
ぶうは、うちのかいだんを
おとをたててのぼりました。
トントントン
あきおくんは、もっと
ないてしまいました。



うちのなかにはいると、
ぶうはきゅうりをだして、
まないたのうえにおくと、
ほうちょうできました。
トントントン
あきおくんは、もっともっとなきました。



「もうだめだ」

ぶうは、あきらめて、よこになりました。そのとき、ぶうはおもいついたのです。

「ああ、トントンって、これだ。」

ぶうは、あきおくんのおなかをトントントンとたたきました。

「ぶうた、ぶうたねむれよ、
よいこぶた」 すると…



うあーん



と、あきおくんは
いままででいちばん
おおきなこえで
なきはじめました。
これじゃたいへんと、
ぶうは、あきおくんを
せおって、すぐさま
あきおくんのいえに
とんでいきました。

あきおくんのいえにつくと、
ぶうは、とをたたきながら
さげびました。

とんとんとん

「あきおくんのおかあさん、
かえってますか。わたし、
もう、あきおくんのめんどう
みれません。トントンって
なんなのか、わかりません。」





とがあいて、あきおくんの
おかあさんがでてきました。
「あら、ふうちゃん、そんなこと
ないじゃない。
ありがとう、よくめんどうみて
くれて。」

「え？」
ふうはあきおくんをみました。

あきおくんは、すやすやと
ねむっていました。

「もしかして、トントンって、
とをたたくおとですか。」

「そうよ、このこ、ひとみしり
するから、だれかがくると、
ねたふりするの。それがくせに
なっちゃったみたい。」

「なあんだ、そうだったのか。」



「また、たのむわね、ぶうちゃん。」





『トントン子守り』

作・柿本 慧子 (かきもとさとこ)

2012.1.15

トントン子守り

<http://p.booklog.jp/book/43871>

著者：かっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43871>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43871>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.